

上級者☆問題

1. 「献上品としてはあまりにみみっちいのではないか」とまじめに指摘してきた人がいた。

とありますが、その人はなぜみみっちいと感じたのでしょうか。

- A) 貴人への献上品として縮緬一匹ではあまりにも少なすぎると思ったから。
- B) 貴人への献上品として小さな小魚一匹ではあまりにも少なすぎると思ったから。
- C) 貴人への献上品として絹織物を選ぶというのはあまりにつまらない品だと思ったから。
- D) 貴人への献上品として縮緬を選ぶというのはあまりにも安価な品だと思ったから。

2. 「行李の「ひと梱」は風前のともしびだろう」とありますが、これはどういう意味ですか。

- A) 忘れ去られていく数え方がある中で、行李の「梱」という助数詞は、風の中にあってもしっかりと明かりを灯すともしびのように、しっかりと存在している。
- B) 忘れ去られていく数え方がある中で、行李の「梱」という助数詞は、風の中にあってはとまるはずのないともしびのように全く消え去られてしまっている。
- C) 忘れ去られていく数え方がある中で、行李の「梱」という助数詞は、風の中で今にも消えそうなともしびのように、今にも消えてなくなりそうな状況にある。
- D) 忘れ去られていく数え方がある中で、行李の「梱」という助数詞は、風の中で火をともしようとしても、無理なように、復活させようとしても、それはもう難しい状況にある既に消えてしまった助動詞である。

3. 本文の内容と一致するものを一つ選びなさい。

- A) 日本語学習をする外国人にとってなかなかの曲者である助数詞は、今や日本人にとっても大変複雑で奥深い文法項目として、再認識されるべきである。
- B) 日本文化の細部を照らし出してくれる助数詞は、時代遅れの文化の衰退と共に消えてなくなるものもあって当然だ。
- C) 日本語の助数詞の複雑さは今や日本人にとっても理解することが難しい状況にあるが、これを簡潔にしていくことが、職人の仕事である。
- D) 日本語にはさまざまな数え方があり、その複雑さと豊かさから日本文化の細部をも垣間見られるが、その助数詞が用いられる文化の担い手や手仕事の世界が衰退していくと、その助数詞もまた消えてなくなってしまう運命にある。